



VM のプロビジョニング

- [HyperFlex ポッドでの VM プロビジョニング, 1 ページ](#)
- [HyperFlex ポッドでの仮想データセンター, 1 ページ](#)
- [HyperFlex ポッドでの ReadyClone VM, 2 ページ](#)

HyperFlex ポッドでの VM プロビジョニング

HyperFlex ポッドに VM をプロビジョニングするには、以下の2つのオプションがあります。どちらのオプションを選択するかは、同時にプロビジョニングする VM の数と、HyperFlex ポッドでの VM のプロビジョニングをエンドユーザーに許可するかどうかによって決まります。

- VDC ベースの VM を選択した場合、エンドユーザーまたは管理者権限を持つユーザーは同時に1つの VM をプロビジョニングできます。
- ReadyClone VM を選択した場合、管理者権限を持つユーザーは同時に複数の VM をプロビジョニングできます。ReadyClone VM は、HyperFlex テクノロジーにより多数の VM の複製を迅速に実行します。これらすべての VM は、同じ VM テンプレートに基づく必要があります。Cisco HX Data Platform 上の ReadyClone VM の詳細については、『[Cisco HyperFlex Data Platform Management Guide](#)』を参照してください。

HyperFlex ポッドでの仮想データセンター

仮想データセンター (VDC) を使用すると、標準の Cisco UCS Director VM プロビジョニングプロセスで HyperFlex ポッドに VM をプロビジョニングできます。VDC を使用して VM をプロビジョニングする場合は、すべての HyperFlex VDC が推奨どおりに設定されているか確認する必要があります。

VDC および VM のプロビジョニング方法の詳細については、『[Cisco UCS Director Administration Guide](#)』を参照してください。

HyperFlex ポッドでの ReadyClone VM

ReadyClone VM により、同じ VM テンプレートから迅速に複数のクローン VM を作成してカスタマイズできるようになっています。クローニング操作が完了すると、ReadyClone VM は独自のオペレーティングシステムを備えた単独のゲスト VM になります。

ReadyClone VM に変更を加えても、VM テンプレートには影響しません。ReadyClone VM の MAC アドレスおよび UUID は、VM テンプレートの MAC アドレスおよび UUID とは異なります。

ReadyClone VM の機能、利点、ベストプラクティス、およびガイドラインの詳細については、『[Cisco HyperFlex Data Platform Management Guide](#)』を参照してください。

ReadyClone VM での VM プロビジョニングに関するガイドライン

ReadyClone を使用して VM をプロビジョニングする前に、次のガイドラインを確認してください。

必要なユーザ権限

Cisco UCS Director 管理者用ポータルで ReadyClone VM をプロビジョニングするには、Cisco UCS Director 管理者権限が必要です。

HyperFlex のガイドラインに準拠した VM テンプレート

ReadyClone VM の作成に使用する VM テンプレートは、『[Cisco HyperFlex Data Platform Management Guide](#)』に記載されているガイドラインに準拠していなければなりません。

同時にプロビジョニングできる VM の最大数

1 つの VM テンプレートから同時にプロビジョニングできる ReadyClone VM の数は、1 ～ 256 です。

ゲスト オペレーティング システムの制約事項

ReadyClone でプロビジョニングされたどの VM でも、ゲスト オペレーティング システム (OS) の設定に対し、VMware vCenter で作成された同じカスタマイズ仕様を使用する必要があります。ゲスト OS は Linux または Windows のいずれかにできます。

[ReadyClone] チェックボックスの可用性

ReadyClone で VM をプロビジョニングするには、以下の条件を満たす必要があります。

- ストレージ ポリシーの設定時に、[ReadyClone] チェックボックスをオンにする。
- カタログの作成時に、[ReadyClone] チェックボックスをオンにする。
- プロビジョニングに標準カタログを使用する場合は、選択したイメージが HX データストア上に存在し、VMに複数のディスクおよびVMware スナップショットがないことを確認する。

この条件を満たしていない場合は、ReadyClone オプションを使用して VM をプロビジョニングするとエラーメッセージが表示されます。

ReadyClone VM での VM プロビジョニング

はじめる前に

- 必要な VM テンプレートを VMware vCenter で作成します。
- (任意) すべての VM のゲスト OS 設定を指定するカスタマイズ仕様を VMware vCenter で作成します。
- HX クラスタ内のすべてのホストに VM テンプレートを含むデータストアがマウントされていることを確認します。
- プロビジョニングエラーを防ぐために、プロビジョニングする VM 数に対して必要な領域の大きさは、データストアで使用可能な空き領域よりも小さくする必要があります。

ステップ 1 [ハイパー コンバージド (Hyper Converged)] > [HyperFlex] の順に選択します。

ステップ 2 [HyperFlex] ページで、ポッドを選択します。

ステップ 3 [HyperFlex] ページで、[VM テンプレート (VM Templates)] をクリックします。

ステップ 4 ReadyClone VM の基礎となる VM テンプレートを含む行をクリックし、[ReadyClone VM の作成 (Create ReadyClone VMs)] をクリックします。

ステップ 5 [Create HyperFlex ReadyClone VM の作成 (Create HyperFlex ReadyClone VMs)] 画面で、次の必須フィールドに入力します。

- a) [クローン数 (Number of Clones)] フィールドに、このテンプレートからプロビジョニングする VM の数を入力します。
プロビジョニングできる VM の数は 1 ~ 256 です。
- b) (任意) [カスタマイズ仕様名 (Customization Spec Name)] ドロップダウンリストから、複製した VM に適用するカスタマイズ仕様の名前を選択します。
カスタマイズ仕様には、Windows または Linux のいずれかのゲスト OS 設定を含めることができます。
『[Cisco HyperFlex Data Platform Management Guide](#)』を参照してください。
- c) (任意) [リソースプール名 (Resource Pool Name)] フィールドを展開し、VM に使用するリソースプールを含む行をクリックして、[選択 (Select)] をクリックします。
- d) [VM 名のプレフィクス (VM Name Prefix)] フィールドに、VM 名に使用するプレフィクスを入力します。
- e) [ゲスト名のプレフィクス (Guest Name Prefix)] フィールドに、ゲストホスト VM 名に使用するプレフィクスを入力します。
- f) [クローンの開始番号 (Start Clone Number)] フィールドに、最初に作成された VM に使用する番号を入力します。

システムはこの番号を、最初のクローン VM 名のプレフィクスの後に追加します。たとえば、VM 名のプレフィクスとして「**clone**」を指定し、クローンの開始番号として「**1**」を指定した場合、最初の VM の名前は「**clone1**」となります。

- g) [クローン番号の増分値 (Increment Clone Number)] フィールドに、以降のすべてのクローン番号に適用する増分値を入力します。
たとえば、最初の VM の名前が「**clone1**」の場合にこのフィールドに「**1**」を入力すると、以降の VM の名前は 1 ずつ増分され、「**clone2**」、「**clone3**」となります。
- h) 複製プロセスの完了後にゲスト VM の電源を自動的にオンにする場合は、[導入後に電源をオンにします (Power ON After Deploy)] チェック ボックスをオンにします。

ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

(注) 次の方法により、ReadyClones を通じて VM をプロビジョニングすることもできます。

[HyperFlex ReadyClone ワークフロー (HyperFlex ReadyClone Workflow)] を実行する。参照先：
[オーケストレーション ワークフローを使用した自動化](#)

[VM の複製 (Clone VM)] タスクを使用する。『[Cloning a VM chapter in Cisco UCS Director Administration Guide](#)』を参照してください。

次の作業

次の内容を表示できます。

- VM プロビジョニングのサービス リクエストのステータス。[HyperFlex] ページで、ポッドを選択して [サービス リクエスト (Service Requests)] をクリックします。
- プロビジョニング済み VM。[HyperFlex] ページで、ポッドを選択して [VMs] をクリックします。